

スペシャリストから ～変化する大学院生活～

大学院生の日常を知るシリーズ。前回秋号は理系大学院だった。今回は社会に貢献できる「政策のプロ」を養成する中央大学大学院公共政策研究科修士課程・植野妙実子研究室所属の来幸佑(らい・こうすけ)さんを東京・市ヶ谷田町キャンパスに訪ねた。進路を決めたのは1冊の本だった。

平和学入門



中大法学部国際企業関係法学科3年だった来さんは、宮野洋一教授の国際法のゼミや「法と経済をグローバルに学ぶことで、地球市民としての資質を磨く」(中大コンセプト2013・学科紹介)授業などからスーダンやカンボジアなどの紛争解決、安全保障、平和構築といった国際社会のテーマを考えていた。

「勉強すればするほど自分は視野が狭い。紛争は歴史、宗教、政治、経済などが複雑に絡み合っていることが多い。もっと勉強しなくては…」と感じました」

そのころ1冊の本と出会う。ヨハン・ガルトゥング著の『平和学入門』(法律文化社、2003年)である。

著者はノルウェーに生まれた現代平和学の世界的権威で紛争解決や平和構築に詳しい。中大出



版部からも『90年代日本への提言 平和学の見地から』(1989年)『構造的暴力と平和』(1991年)の2冊が刊行されている。

「ガルトゥングの『平和学入門』を読んで、勉強すべきことが見えてきました」

大学院への道はこうして始まった。相



中央大学大学院公共政策研究科修士課程・植野妙実子研究室所属
来 幸佑さん 中央大学法学部卒。26歳。高知県出身。

談した先輩からは「問題意識を持って、それに取り組むのなら、大学院へ進んだほうがいい」と支持された。この問題意識を持っているかどうかポイントとなるようだ。

政策のプロを目指す



志望動機を満たしてくれる学び舎があった。

「公共政策研究科」だ。ここは公務員をはじめNPO職員やシンクタンク研究員など、様々な分野における「政策のプロフェッショナル」の養成を目指している。研究者教員の他にも公務員や

ジャーナリスト、国会議員といった多くの実務家教員が教鞭をとっている。

来さんが凝視している国、アフリカのスーダン。南スーダンが分離独立する2011年7月9日まで「アフリカ最長の内戦」「世界最大の人道危機」と言われた。

独立前には10万人以上の難民が南へ避難した。危険な紛争地帯を避けて、多く的人是は徒歩で移動した。3カ月かけてたどり着く人がいる。病気やけが、空腹と戦い、やっとつかんだ独立自由。しかしそれからが大変で、安全保障やインフラ整備、住民投票など平和構築には、考えられるあらゆることをしなければならぬ。

ゼネラリストへ

白熱するプレゼン



来さんが属し、「政策のプロ」を目指す研究科では、自分の研究案を発表するプレゼンテーションがよく行われる。約20人の院生には社会人経験者もいれば、官庁や企業からの研修生もいる。多様な人材がそれぞれに意見を述べ、熱い議論を重ねていく。

「心がけているのは、自分の意見をしっかり持つこと。現実性を取り入れているのか、自分との戦いでもあります」

個人研究のほか、研究科がチームで取り組む「政策ワークショップ」があり、政策提言をつくっていく。研究は個人とチームの2テーマだ。

ハードな時だと、その日のプレゼンのため朝から最終の確認作業に追われる。午後の授業でプレゼン。このあとは官庁や団体、企業などへ研究に必要な「ヒアリング調査」に出かける。研究室に戻り、深夜まで研究を続けることもある。プレゼンは通年で15回程度はあるという。

「院生同士は仲が良く、みんなで食

事に出かけることもあります。大学院生活は大変ですが、やりたいことを研究できる。学部時代とはまた違った楽しさがあります」

神田川や東京ドームを見降ろす15階建ての高層ビルのキャンパスには、研究室のほかにも勉強できるスペースや息抜きができるラウンジもある。

目標は国際貢献



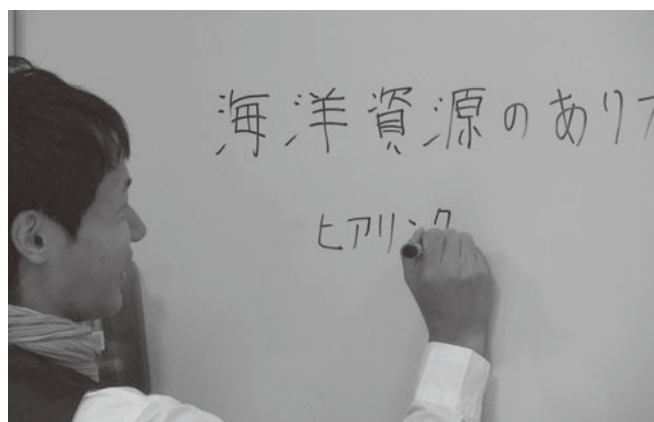
公共政策研究科の歴史はまだ浅く、来さんで8期生。「個人的な考えですが…」と前置きして話したのは今後の大学院の方向性だ。「大学院はこれまで専門分野をさらに深めるという考え方をされてきました。今は少し変わってきて、これまでのようなスペシャリストだけではなく、ゼネラリストの養成も求められるのではないのでしょうか」

原発事故から復

興するには地域生活者の安心安全、安定雇用、地域経済など諸問題が複雑に絡み合っている。スーダンへの平和支援では国際政治・経済・外交などが重要テーマになる。

「学部時代は法律の条文や経済の理論を学んでも、それが社会とどう関わるのかといった視点が足りなかったように思います。中大は実学を重視しています。学んだことを広く世界でトライしてみたい。最終的な目標は国際協力への貢献です」

そう言ったあと、「夢ですが」と照れくさそうに付け加えたが、夢の実現はそう遠くないだろう。



■市ヶ谷田町キャンパス

2010年4月開校。後樂園、市ヶ谷に続く都心の第3のキャンパスだ。通称名を「中央大学ミドルブリッジ」という。「本学創設者たちが留学したミドルテンブルと125年の時を経て関係を橋渡しする意味と、中央大学の都心の拠点として学生、教職員、学員の間を橋渡し、コラボレーションしてもらいたいという願いをこめた名称が相応しい」とのことから決定した。

この施設には国際会計研究科、法科大学院、法務研修施設、公共政策研究科に加え、国際交流を視野に入れたコミュニケーションセンター機能を収容している。JR市ヶ谷駅から徒歩5分。